

あげお 学びのイノベーション

推進プラン



活用する



ステップ③

目標☞児童生徒自ら必要に応じて活用

- 児童生徒も教師も、必要な時に活用
- デジタル、アナログの自由な選択

令和5年度

慣れる

ステップ②

目標☞1日に2~3回活用

- 発表や話し合い
- 意見整理
- 協働制作

「ICT端末の効果的な活用推進」&「情報モラル教育の充実」

★ICT端末を活用した授業研究会の実施

★情報モラル教育研修会の実施

★学校ICT支援員の派遣 ★クラウド活用の促進



令和4年度

触れる

ステップ①

目標☞1日に1~2回活用

- 記録を残す
 - 調べる
 - 学習内容の定着を図る
- 「従来の授業手段の代替的活用」

★情報教育推進者の育成 ★ICT端末利用規定等の作成

★「AGEO・オンライン・トライアル」の実施

令和3年度



- 学習者用パソコン・充電保管庫・モバイルルーター・ネットワーク等の設置・整備に関すること
上尾市教育委員会教育総務部教育総務課 775-9469
- 授業における活用に関すること
上尾市教育委員会学校教育部指導課 775-9672



上尾市教育委員会

令和4年度

あげお 学びのイノベーション



上尾市は、G I G Aスクール構想により
今までの教育実践×最先端のICTで
新たな学びを創り出します！

G I G Aスクール構想とは

G I G Aとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、Society5.0時代に生きる子供たちの未来を見据え、一人一台分のコンピュータ端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する取組です。令和元年12月に文部科学省から打ち出されました。



上尾市小・中学校の充実したICT環境

学習プラットフォーム

Google Workspace for Education Fundamentals

まなびポケット

MEXCBT
メクスビット

Wi-Fi

校内無線LAN・高速ネットワーク
(各教室・特別教室・体育館)



授業支援システム
「school Takt」

文科省「MEXCBT」
オンラインドリル

eboard

大型モニタ

指導者用デジタル
教科書

学校メール
配信システム

chromebook

Windows 端末

ICT端末(学習者用・教師用)

充電保管庫
(各教室)

学校ICT支援員の学校派遣(週に1回)

遠隔学習用機器
(マイク付きカメラ各校11台)



児童生徒
1人1アカウント配付

家庭用貸出
モバイルルーター

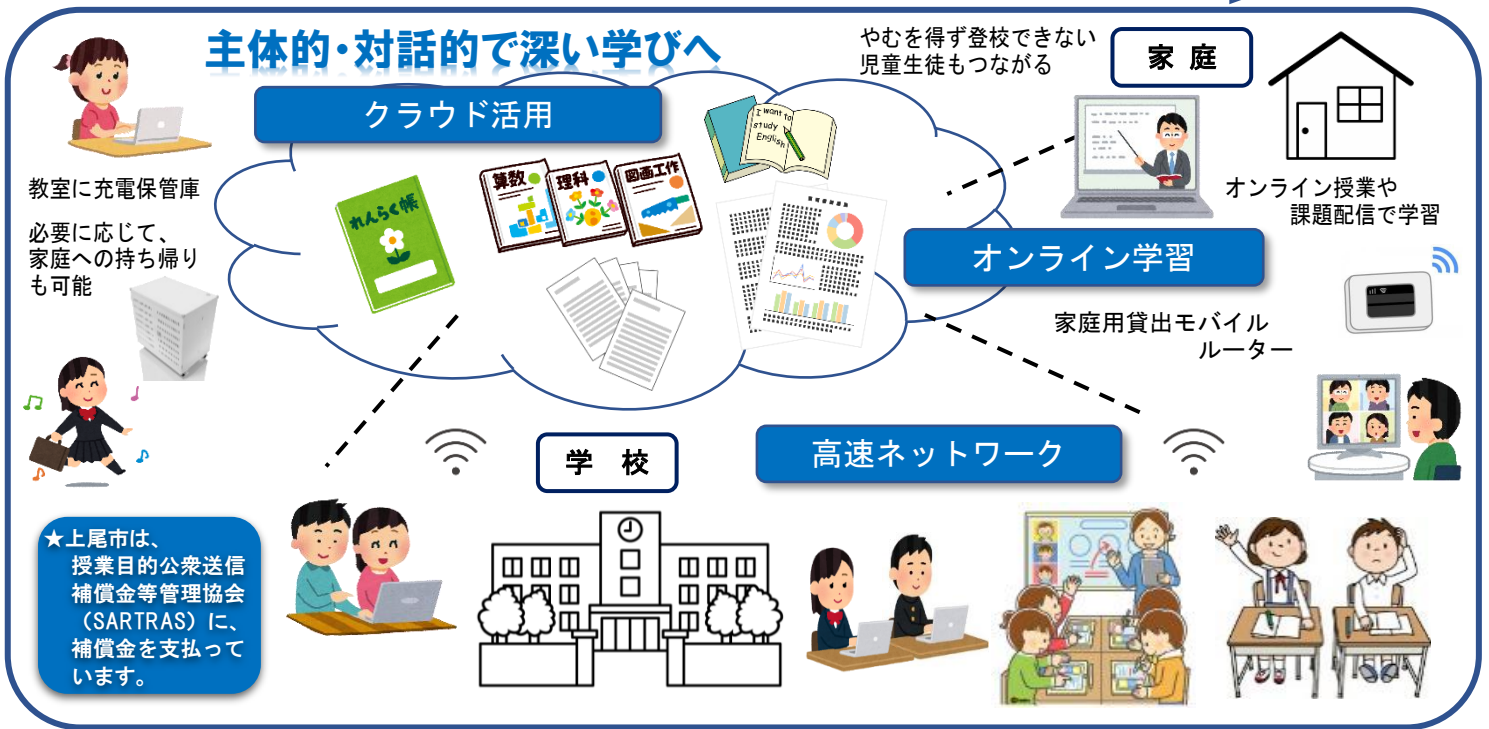


Web会議システム等を活用し、同時
双方向型の学習等に活用できます。



上尾市教育委員会

新しい学びの環境



Google Workspace for Education Fundamentals でできること



まなびポケットでできること

eboard 個別学習で eboard

- ★特徴⇒学習内容の定着や学び直しができます。オンラインドリルを進めながら、つまづいた時に映像教材を活用できます。
- ★機能⇒個別学習支援、映像学習、オンラインドリル、プリント教材
- ★教科⇒国語（漢字）、社会、算数・数学、理科、英語

協働学習で schoolTakt schoolTakt

- ★特徴⇒教師が動く教材を作成することができます。教師が児童生徒の学習を把握したり、児童生徒が互いの考えを共有し学び合ったりすることができます。
- ★機能⇒協働学習支援
- ★教科等⇒国語、社会、算数・数学、理科、英語、プログラミング等

学びの保障オンライン学習システム MEXCBT

- ★文部科学省が開発した「デジタル学習システム」です。登録された問題集に自由に取り組むことができます。



ICTを活用した授業づくり



手順1 授業のねらいを明確にして、3つの視点から授業を組み立てる

授業の組み立てに必要なとなる3つの視点

何を学ばせるか

どのような力を身に付けさせるか

どのような学ばせ方が望ましいか

事前にアンケートをとりたいな。そして、より多くの考えを知る(把握する)方法あるかしら？



授業の組み立て(例)

導入
課題の把握
学習の見通し

展開
自分で考える
他者と協働する等

まとめ
学習の振り返り
学習内容の定着

手順2 授業場面に応じたICT活用の検討

◇手順1で組み立てた授業「導入」「展開」「まとめ」における各取組において、授業のねらいを達成するために効果的なICT活用を検討する。

〈ある1時間の学習過程例 ~Google Workspace for Education Fundamentalsを活用~〉

(T) 教師 (S) 児童生徒

導入
課題の把握
学習の見通し

展開
自分で考える 他者と協働する等

まとめ
学習の振り返り
学習内容の定着

活用例

フォーム

Classroomに入る。
↓
(T) フォームのリンクを投稿。
↓
(S) 本時の課題に関わる質問について回答。
↓
(T) フォームの結果を全体に提示。

ドキュメント

(S) 本時の課題について、自分の考えをドキュメントにまとめる。

インターネット上の資料や教科書の挿絵などを取り込んで、考えの根拠となるものを整理する。

Jamboard

(S) 自分の考えをデジタル付箋紙に書き、共有スペースに投稿し、他者の意見と比較す

スライド

(S) 他者の意見と比較しながら、自分の考えを再考し、スライドにまとめる。

スライド

(S) スライドを提示しながら発表し、クラス全体で内容の確認を行う。

フォーム

(S) 本時の振り返りを行い、自己評価を記述・回答。
(T) 定着の見届け実施。

ICTは使うことが目的ではありません。あくまでも授業のねらいを達成するために使用し、活用するものです。

教師が児童生徒の学習状況を適切に把握し、その場で補充学習に繋げることなど、ICT端末を活用するメリットを生かしつつ、これまでの効果的な指導方法と組み合わせ、不易と流行のバランスをとることが大切です。

